

たぐし

TAKUSUI
No. 720

10
October.2016

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



漁業取締船「はやたか」

第36回 全国豊かな海づくり大会 開催 JF由良町のアカウニ養殖試験

《今月の海上安全標語》～ LJ (ライフジャケット) 着てますか? ～

忘れることはない!と想着いても、忘れてしまうのが人間。出港前には是非チェックを!

大丈夫? ふね **漁船のチェックと** ライフジャケ **LJ** では、今月も安全操業で!

ようそろ

「ようそろとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるときにの号令として使われる」

犀の角のようにただ独り歩め

共水連兵庫県事務所企画推進課主任 竹中 誠



先日CFPという試験を受けました。いわゆるファイナンシャルプランナー資格試験の一つなのですが、試験は6科目ですべて合格した時点で資格取得というものです。今年はずいぶん受けてみては、内心2〜3科目くらいは試したつもりで受けてみたものの、結果は1科目しか合格できず思いのほか落ち込みました。

肝心の勉強についてですが、学生時代以来、久しぶりの試験勉強だったため、まずどう勉強すればいいかわからず、そこから勉強しないといけないような有様でした。また、始めてはみたもののテキストを読んでもなかなか理解できず、理解したと思えば今度は暗記ができずと、遅々としてはかどりませんでした。そんな中、ふと目をやると直ぐそばにはスマートフォンがあり、冷蔵庫を開けるとビールがあり、身の回りには多くの現実逃避できるものがある。

そんな挫けそうな時に昔から自分に言い聞かせる言葉があります。それは表題にある「犀の角のようにただ独り歩め」という言葉です。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、これはブツダの言葉で、経典ではこのフレーズがわずるか数ページの間に何十回も繰り返されます。これは犀が群れを作らず単独で行動し、またその角が一本である様子から、目的を達成するためには、他の何事にも執着することなく、他人に従属することなく、独立独歩を目指しなさいという意味合いで、この言葉にはこれまで幾度となく励まされました。

ちなみにブツダにはナムチという悪魔が7年間取り憑いていたのですが、7年間一瞬もつけこむ隙がなかったと落胆して消えていったそうです。試験についてはいざ再挑戦したいのですが、その時には7年とは言いませんが、この言葉を胸にせめて1日2時間ほどは悪魔に心奪われずにいらればと思います。

CONTENTS

No.720 October, 2016

- 2 ようそろ
- 3 漁協運動功労者表彰
全国豊かな海づくり大会
- 4 新漁業取締船「はやたか」完成
ノリ採苗作業 はじまる
- 5 淡路漁協職員協議会料理教室
淡路市立江井小学校で干しダコ作り
- 6 JF由良町のアカウニ養殖試験
- 7 神戸海上保安部航行安全課からのお知らせ
- 8 淡路女性連海上安全講習会
海難事故をなくそう
- 9 兵庫JCC通信
- 10 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「漁業取締船「はやたか」」

兵庫県の漁業取締船「はやたか」が完成し、9月7日には、竣工披露式が神戸市の垂水漁港で行われました。

式典は県内の水産関係者をはじめ、大阪、和歌山、香川の行政担当者や海上保安庁などから約100名が出席し、竣工を祝いました。

以前の船より出力が上がるとともに、最新の航海機器を備えた6代目「はやたか」には、今後、一層の漁業秩序の維持、水産資源の保護や漁場利用の適正化が図られ、兵庫県水産業のさらなる振興と発展に寄与していくことが期待されています。

～2016年度(第31回) 漁協運動功労者表彰 受章～

漁協運動功労者表彰の受章者が発表されました!

JF全漁連は9月15日(木)に開催した理事会において2016年度漁協運動功労者表彰39名を決定し、発表しました。

本県からは、JF室津 中川 照央組合長が「的確な判断と卓越した行動力で組合の経営基盤強化に貢献」、「本県水産系統団体の要職に就き、水産業の振興発展に大きく貢献」された功績が認められ受章されました。

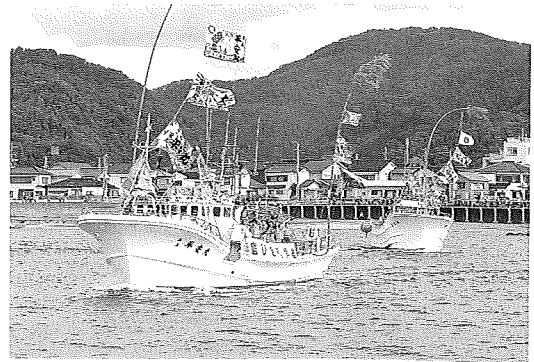
心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



JF室津 中川 照央組合長
(JF兵庫信漁連代表理事会長・JF兵庫漁連理事)

式典は11日に酒田市の酒田市民会館で行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産関係者ら約900人が出席しました。式典では、大島理森大会会長(衆院議長)が「東日本大震災後、東北地方で初めての開催となる。山形県は隣接被災県の復興を後押しされており、この大会を

9月10日(土)、11日(日)の両日、第36回全国豊かな海づくり大会が山形県酒田市、鶴岡市を主会場として開催され、県民を挙げての豊かな海づくりの取り組みなどを発信したほか、東日本大震災からの東北地方全体の復興をアピールしました。



海上パレード(写真撮影: JF全漁連)



第36回 全国豊かな海づくり大会 ~やまがた~
君と川から海へとつなぐ 生命のリレー

天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催されました
(写真提供: JF全漁連)



両陛下によるご放流の様子(写真: 代表撮影)

第36回 全国豊かな海づくり大会

今年も山形県酒田市・鶴岡市を主会場に開催される

通じて東北地方の復興が着実に進んでいるというメッセージを発信して頂きたい」と挨拶されました。また、吉村 美栄子山形県知事は「庄内の豊かな海は、県域の7割を占める広大な森林が醸成する栄養で育まれたもの。この恵みに感謝し、自然を守り育てていく気持ちを次世代につなげていく」と決意を述べられました。

このあと、功績団体表彰、漁業後継者夫妻と県内小中学生による「山形海づくりメッセージ」などがあり、大会決議採択では、岸宏大会推進

委員長(JF全漁連会長)が大会決議を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に吉村知事から次期開催県の福岡県小川 洋知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。

続く、海上歓迎・放流行事は、鼠ヶ関港(鶴岡市)の特設会場で行われました。海上歓迎では、JFやまがた所属漁船や県取締船によるパレードがありました。また、放流行事では、両陛下は招待者とともにトラフグ、クロダイ、ヒラメの稚魚を放流されました。

新漁業取締船「はやたか」完成!

先代の「はやたか」が平成6年の進水で22年を経過して、船体・機関とも金属疲労による劣化が進んできたことから、6代目「はやたか」として平成26年度に公募により設計者を募り、平成27年度に建造に取りかかりました。平成28年7月27日の進水を経て、8月30日に竣工を迎えました。

「はやたか」が任務としている兵庫県瀬戸内海海域は、大阪湾、播磨灘、紀伊水道と広範囲にわたり、多数の好漁場を有することから、小型底びき網、船びき網、刺網等の多種多様な漁業が



9月7日に行われた竣工披露の様子(写真撮影:県水産課)

盛んに営まれています。本県水産業の持続的発展には、豊かな海の再生とともに、水産資源の管理が重要であり、資源管理の取組みを実行性のあるものとするため、「はやたか」は、重要な役割を担っています。

新「はやたか」は、高出力の主機関を2基搭載するほか、最新の船型構造やキャビテーションを抑えるLCプロペラの採用により、巡航速度を36・8ノットに高めるとともに、船体の振動や騒音を抑え、作業環境の改善を図っています。

この機動力を生かして、漁業秩序の維持、水産資源の保護、さらには、漁場利用の適正化を図るとともに、近い将来、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震などの災害時においても、その性能を十分に発揮し、現場での情報収集などに迅速に対応していけるものと考えています。

(文:兵庫県農林水産局水産課)

兵庫県漁業取締船「はやたか」

船質:軽合金製

主要寸法:全長25・5m×幅4・9m

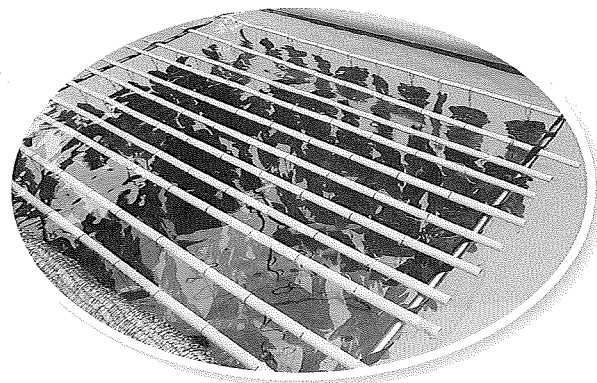
×深さ2・45m

総トン数:43トン

最高速度(試運転最大):37・8KTS

巡航速度(常備状態):36・8KTS

ノリ採苗作業 はじまる!



JF兵庫漁連(田沼政男会長)は、本年度

のノリ陸上採苗作業を、兵庫のり研究所(明石市)で9月23日(金)から、淡路のりセンター(淡路市)では9月28日(水)から開始しました。この作業は、毎年、気温が下がってきた9月下旬から行われており、朝早くから大勢の職員、パートの皆さんが作業を行っています。

撮影のため兵庫のり研究所を訪れたこの日(10月3日)は、台風接近に伴う影響からか、朝から小雨が降る天気、作業開始後はやや鈍い出足となりましたが、徐々に明るくなっていくと、ノリ胞子が次々に水



胞子の付着した網を外す作業に追われていました

車の網に付着し、担当職員らは網を水車から外したり、新しく網を張ったりする作業のほか、付着度合いを確認するための網切りや水温・照度のチェックなどの業務に追われていました。

のり海藻部 藤澤 憲二部長によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約50,000反を仕上げるとのこと。

本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まっています。

魚をおしゃれに♪

～淡路漁協職員協議会が料理教室を開催～



手際良く、次々に料理を完成させていきます



おしゃれな料理が出来上がりました!

9月24日(土) 兵庫県水産会館にて、淡路漁協職員協議会(濱端正司会長・JF洲本炬口)が職員学習と親睦を図るため、JF兵庫漁連シートクラブの協力を得て2年ぶり2回目となる料理教室を開催しました。兵庫県水産振興基金も取材をかねて参加いたしましたので報告します。

クッキングアドバイザー川越淳子氏を講師に迎え、「秋刀魚のケーキずし」「なすのしょうがマリネ」「タコのエスカルゴ風」「エビと豆腐のチリソース」「コーヒゼリー」の5種について、すし飯の作り方、タコには切り込みを入れると歯切れが良いこと、美しいパブリカの切り方、豆板醤を焼き付けると風味が増すことなど、さらに美味しくなるポイントとあわせて教えていただきました。

川越講師の説明を聞いた後、参加した16名(男性5名、女性11名)は4名ずつの班に分かれ、秋刀魚の3枚おろし、エビの処理、材料を切る、調味料を分ける、炒める、揚げるなどときばきと動き、「魚をおしゃれに♪」のテーマのとおり、オリブオイル、バジルや豆板醤などの調味料を使ったおでもなしにも使えるおふくろの味を作りました。班ごとに、それぞれ完成させましたが、料理の段取りや盛り付けなどに個性が出た味わいのあるものができ、昼食として試食しました。いずれの料理もとても美味しく、「家でも作ってみよう」との声も聞かれ、和気あいあいとした楽しい学習会でした。次回の開催も期待されます。

淡路市立江井小学校で干しダコ作り



9月7日(水) 淡路市漁業振興協議会(JF一宮町社領弘会長)主催の「お魚教室」が淡路市江井の市立江井小学校で行われました。この教室は、これまで兵庫県漁業士会が中心に開催されてきましたが、昨年度より同振興協議会が引き継ぐことになり、合わせると今年で8回目となります。この日の講師やスタッフは約16名で、同協議会と県・淡路市職員に加え、JF育波浦魚住幸市さんをはじめとする皆さんが集合しました。

始めに干しダコづくり。まず、お手本として泉洲本農林水産振興事務所水産課田村一樹さんと高倉良太さんが、マダコの急所を突くと一瞬で真っ白になることを実演し、タコの生態や作業手順を解説しながら、手際よく干しダコにしました。その後、全校生に活きたタコが手渡され、いよいよ挑戦です。活きのよいタコを×る作業に手こずりながらも、各講師か

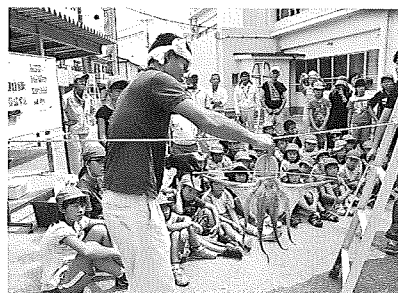
ら内臓の取り方や包丁の使い方を教えてもらい、思い思い、形に仕上げることができ、笑顔があふれました。

この後、前もって準備されたタコ飯、ワカメのみそ汁、チリメン、味付けのりと海の幸いっぱい、の昼食を担当した講師と一緒に、最後に田村課員から、「クイズを交えた「淡路市の漁業について」と題した話がありました。なお、この日作った干しダコは、学校で数日間吊るされた後、各自持ち帰りました。

子どもたちにとって、活きたタコから干しダコを作る作業や、海や漁業の話聞くことが出来た貴重な体験となったようです。



楽しい一日となったようです

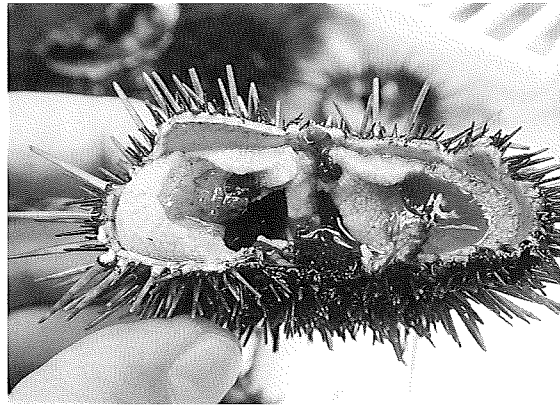
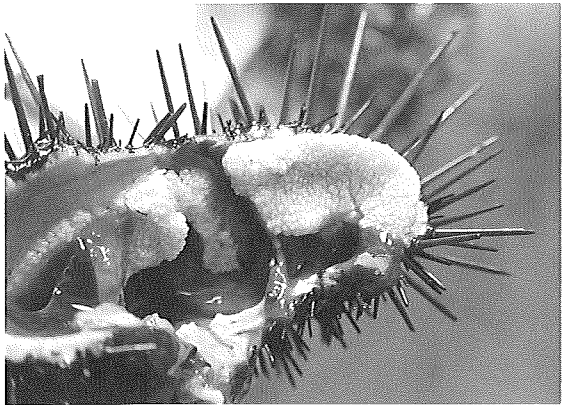


高倉講師は鉢巻姿で実演

JF由良町のアカウニ養殖試験 「試食で『天然物と遜色ない』と好評」

JF由良町（川野 正二組合長）で水揚げされるアカウニはその品質の良さから「由良のアカウニ」として全国的に知名度が上昇し、近年の漁獲量の減少もあって消費需要に対して供給量が追いつかない状況となっています。同JFでは、これまで自主的な資源維持増大の取組みとして、漁獲サイズ規制や出漁規制を行うとともに（公財）ひょうご豊かな海づくり協会（以下、「海づくり協会」と記載）からのアカウニ試験生産種苗の配付を受けて地先への種苗放流などを実施しています。が、まだまだ供給量の増大が求められています。

このため、平成27年度から新たな取組みとして（一財）兵庫県水産振興基金の助成を活用し、アカウニ養殖の可能性を検討することになり、同年9月に養殖を事業化している佐賀県玄海地域を潜水漁業の役員数名が視察しました。視察中に現地の養殖漁業者から殻径約4cmのアカウニ種苗24個を提供した。ただけのこととなり、13時間かけて由良に持ち帰りました。これとともに海



左：佐賀県から提供を受け養殖したアカウニ 右：天然アカウニ

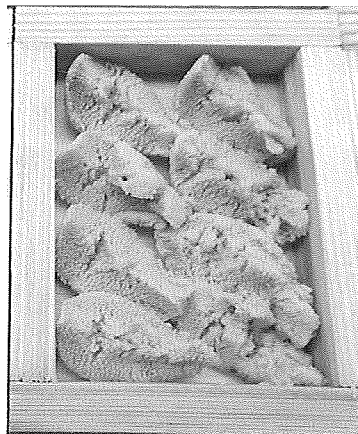
づくり協会の試験生産種苗4,500個も提供いただけることとなり、佐賀県が実施しているコンテナを用いた海面での垂下養殖及び陸上水槽での養殖試験を開始しました。

アカウニは低水温に弱いことが知られており、由良地先では冬季の水温低下による斃死が心配されましたが、90%以上の高い生残率を維持して越冬させることができました。今春以降、水温上昇とともに、地先海域で採取して給餌しているカジメの摂餌量も増え、順調に殻の大きさ、重量ともに増加してきました。

由良で養殖を開始して1年が経過し、佐賀県から提供された種苗が出荷サイズに達したことから、9月12日に身入りの確認と天然物のアカウニとの食味の比較がJF由良町で行われました。

当日は、洲本市長をはじめとする地元行政関係者や独自の地域振興支援を行っている地元銀行関係者、報道関係者が招待され、養殖アカウニのお披露目も兼ねて試食が行われました。

試食に提供された養殖ウニは約1年半の育成のため、3年以上たった天然物の最高級特大サイズと比べるとやや小粒となるものの、天然物に比べ均一できれいな身の色が特徴でした。注目の食味は、口に入れるとふわりとろ



左：佐賀県から提供を受け養殖したアカウニ 右：天然アカウニ

け、ウニの甘みが口の中いっぱいになり、参加者からは「天然物に引け取らない味だ」と好評を博しました。

報道機関の取材に対して、同JFでは「天然物と比較しても味に差はなく、1年半でこの味になるのであれば成功といえる」とアカウニの養殖に手応えを感じておられ、「まだまだ課題はあるが養殖規模を拡大し由良のアカウニを消費者の身近なものにしたい」と今後の展望を述べられていました。

（文：県洲本農林水産振興事務所）

重要なお知らせ



神戸海上保安部航行安全課
からのお知らせ

平成28年11月に改正港則法が一部施行され、
「雑種船」が「汽艇等」となり、対象範囲が変更されます。

雑種船の名称及び対象範囲の変更(港則法第3条第1項)

【改正前】

この法律において、「雑種船」とは、汽艇、はしけ及び端舟その他ろかいのみをもって運転し、又は主としてろかいをもって運転する船舶をいう。



【改正後】

この法律において、「汽艇等」とは、汽艇(総トン数20トン未満の汽船をいう。)、はしけ及び端舟その他ろかいのみをもって運転し、又は主としてろかいをもって運転する船舶をいう。

(改正前)

ざっしゅせん
『 雑種船 』

名称の変更

きていとう
『 汽艇等 』

(改正後)

対象範囲の変更

汽艇
活動範囲が主として港内
であるか否かで判断

総トン数20トン
未満の汽船(注1)(注2)
総トン数が20トン未満か
20トン以上で判断

対象がより明確
になります

(注1) 「汽船」は動力船の総称です。

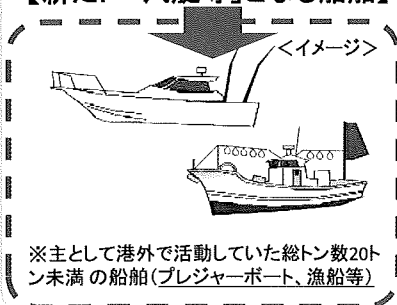
(注2) 長さには関係なく、総トン数が20トン以上であれば、「汽艇等」には含まれません。

この改正により、主として港外で活動していた総トン数20トン未満の動力船(プレジャーボート、漁船等)が、港内を航行するときは、「汽艇等」となります。

新たに「汽艇等」になる船舶に関連する港則法のルール

「汽艇等」となる船舶に以下のルールが適用されます。

【新たに「汽艇等」となる船舶】



- ・港内での避航義務(港則法第18条)
狭い港内では運動性能が悪く操船範囲が限られる大型の船舶を、操船自由度の高い小型の船舶が避けなければなりません。
- ・みだり係留の禁止(港則法第9条)
係船浮標や貨物船など大きな船舶が着岸する公共岸壁などへ正当な理由なく係留することは禁止されます。

【お問い合わせ先】 ※最寄の海上保安部又は管区海上保安本部にお問い合わせください。

第五管区海上保安本部

交通部航行安全課 代表078-391-6551 (直通078-331-2710)

神戸海上保安部 代表078-331-6743

淡路女性連が海上安全講習会を開催

淡路地区漁協女性部連合会（森 武美会長）は、9月13日（火）兵庫県水産会館で海上安全講習会を開催し、同連合会や系統団体関係者ら約40名が集まりました。

講習会では、まず、JF兵庫漁連が作成したDVD「命を守る運動～ライフジャケットで安全操業を～」の視聴を行いました。続いて、JF兵庫漁連指導部が「家族の命は地球より重い」と題した講演を行い、ライフジャケットを着用しない人の心理などについて、様々な角度からその理由について解説がありました。

最後に、指導部メンバーがモデルとなって、ライフジャケットの種類と特徴、着用時の注意点を説明したほか、森会長をはじめ参加者が膨張式ライフジャケットを着用しての作動体験を行うなど、参加者はライフジャケット着用の重要性について認識を深めることが出来たようです。



ライフジャケットについている笛の音量も確認



「命を守る運動～ライフジャケットで安全操業を～」が上映されました



海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着用しよう!

自動膨張式ライフジャケットは、定期的なメンテナンスが必要です。なお、着用の際は体に合ったサイズを選ぶか、金具等を調整して使用しましょう。

固型式ライフジャケット
モデル：兵庫県漁業協同組合連合会 小西 裕也さん



**～安全をサポート～
浮力合羽はお持ちですか？**

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。
※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

浮力は十分あり!



モデル：兵庫県漁業協同組合連合会 荻田 治樹さん

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部（078-942-9272）までお問い合わせください

生産者のこだわりを伝える 「ひょうごを食べる 農の現場から」冊子を作成

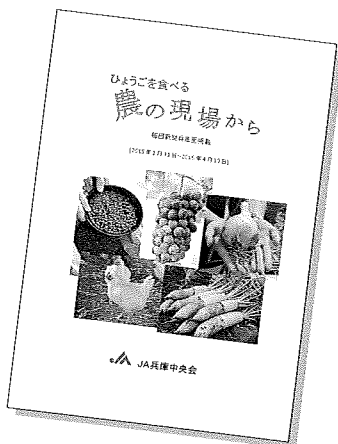
JA兵庫中央会

JA兵庫中央会は、毎日新聞兵庫面に毎月2回のペースで連載している企画記事を取りまとめ、「ひょうごを食べる 農の現場から」冊子を作成しました。

この企画記事は、本県の農畜産物に関する情報を県内の消費者に発信するため、県産農畜産物の特長や美味しい食べ方とともに、栽培等の工夫、生産者から消費者へのメッセージなど産地ならではの情報を紹介。今回作成した冊子は2015年1月から2016年4月までに掲載された30品目を紹介しています。

毎日新聞の土居 和弘・前神戸支局長は、冊子の序文に「『今が旬』の作物が兵庫県にはこれほどあるのかと驚かされます」「この連載が生産者と消費者をつなぐ一助となればと思っています」と寄せられました。

この冊子は消費者等に広く配布し、県産農畜産物、生産者のこだわり等を発信していきます。



産地から消費者へ情報を発信する
「ひょうごを食べる 農の現場から」

音楽を通して平和について 考える一日

～ピースアクション2016
「広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催～

兵庫県生活協同組合連合会では、毎年、県内の購買・大学・医療・共済などのさまざまな分野の生協と一緒に、平和の大切さ、尊さをみんなで考え、確かめ合う場としてピースアクションの取り組みを行っています。8回目となる「広島被爆ピアノ平和コンサート」を、8月7日、レバンテホール（神戸市垂水区）にて開催、組合員と出演者、スタッフ、合わせて約350名が参加しました。

演奏された「岩田家の被爆ピアノ」は、所有する被爆ピアノの中で爆心地より最も近い1.5kmの民家で被爆しました。原爆の爆風により、無数のガラスの破片が突き刺さり傷ついたピアノですが、2014年4月2日、所有者よりピアノ調律師の矢川光則さんに託され、現在、平和の大切さを伝えるために全国各地でコンサートが開かれています。

ピアノ：森須 奏絵さん、ソプラノ：大島 久美子さんにより朗読と歌が披露され、コープこうべ第5地区の平和企画委員による「ちいちゃんのかげおくり」の朗読と虹っ子平和スタディツアー in 沖縄に参加した中学生の報告で、平和の尊さを伝えました。

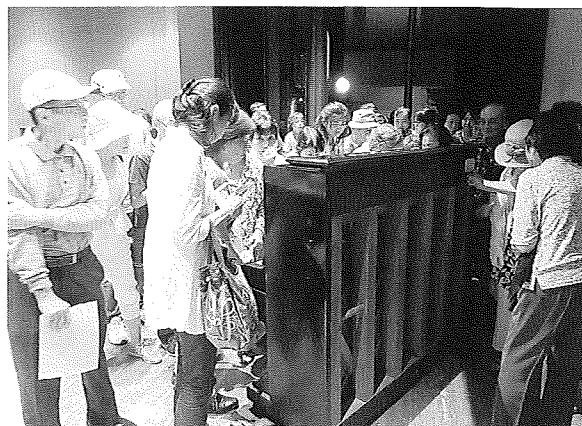
広島出身の大島さんは、「戦争を知らない私たちにできることは、何があったかを知り、伝えること、忘れないことです。このピアノを聴いて、私たちができる平和活動が何かを一緒に考えるきっかけになればと思います」と話されました。

71年の歳月を経て、平和を祈り続ける被爆ピアノ。その美しい音色に、会場の参加者からは「平和の大切さ、平和を次の世代へ繋いでいくことが私たちの役割だと思いました」「当たり前と思っていた平和は、当たり前でないこと。私にできる平和活動を見つけていきます」といった声が寄せられ、音楽を通して平和への想いをつなぐコンサートになりました。

またコンサート終了後は、会場のみなさまに被爆ピアノに触れていただき、原爆の熱線を越えて平和を語り継ぐ被爆ピアノを身近に感じていただくことができました。



会場は平和の願いを込めた音色に包まれました



被爆ピアノを間近で見学いただきました

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

スポーツ音痴

◆此の欄にスポーツに関わる事は、余り書いていない。スポーツ音痴なのである。健康法にスポーツを掲げる人は多く、確かに健全な事には違いない。野球観戦を趣味とする人は、以前に選手をした経験がある人だろうが、球戯のうちでも野球は歴史が古い。漱石「吾輩は猫である」に、主人公が中学生の野球に悩まされる場面がある。隣接の中学校から庭へボールが飛んで来る。頻繁に飛び込み学生が無断で庭へ入るため、痲癩を起こして怒る。実際の漱石は正岡子規に感化されて、野球が好きだったらしく、大正四年の日記に早稲田対一高の試合観戦の事を記している。スポーツは観るだけでも心身共に楽しめるようだ。

◆野球の観戦もルールを知らないと言白さは半減する。走り・打ち・投げる姿も美しいが、ルールが判ればもっと楽しい。野球はサッカーやボクシングと違い時間的にはルーズな面があり、観戦にも時間的余裕が必要である。ボールを打ち一塁へ走り、一塁手がボールを捕る前にベースを踏む、走者は二塁・三塁と進み、もとの場へ戻って一点取得する。正岡子規は野球大好き人間だった。漱石も大学で水泳や乗馬・テニスをやり器械体操の名手、相撲観戦も好きで眞力士もいた。大正五年春場所を国技館へ招待され、棧敷席にて観戦している。

◆四年に一度の国際的スポーツの祭典「オリンピック」がブラジルで開催された。八月初めから連日、テレビ画面は日本選手の活躍を伝え、水泳・柔道・体操・レスリングと金・銀・銅のメダルラッシュで沸き返っている。大きな笑顔とともに、ハイライトニュースが楽しめる。オリンピックは参加する事に意義がありとも言いが、全世界の一流選手が集い、技を競って最高の記録が出れば素晴らしい成果と絶賛できるもので、全く申す事はあるまい。その数々の競技も観戦する事で大いに盛り上がり、スポーツ音痴解消の気になれるのである。

◆映画「秋刀魚の味」に、佐田啓二扮するサラリーマンが、ゴルフクラブ4本程を手にして会社から帰ってくる。妻(岡田茉莉子)の咎めに、掘り出し物だヨというが「私も買いたい物を我慢している、返してらっしゃい」と言われる。翌日、同僚に返却するが未練が残り、帰宅しても妻と口をきかない所へ、同僚が月賦払いで良いとクラブを持参、妻は一旦断るが、やがて風向きを変え「コレ一回分」と支払う。夫と同僚は「いいんだよな、コレ」とクラブを撫でながら嬉し気に領き合う。小津安二郎監督もゴルフ大好きで、そんな雰囲気はホンワカ伝わってくる場面だった。松江海岸の砂浜でクラブを振っている人あり。

大輪田塾だより

平成28年度 大輪田塾修了論文発表会

本年度の大輪田塾修了予定者が、これまでの研修の総仕上げとして行う大輪田塾修了論文発表会が、9月13日(火) 兵庫県水産会館で開催されました。山田隆義塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員ら約50名が出席するなか、大輪田塾10期生5名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。発表後に行われた講評で、運営委員を代表して関西学院大学 田和正孝教授から発表者全員の論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。田和運営委員は「皆さんが発表した論文内容は、どのように発展させていくのかという課題を我々に与えてくれた。今後、大きなビジネスチャンスがあるといわれる漁業の今後を考えさせられる、素晴らしい内容のものであった」と話され、発表者は安堵の表情と共に、これまでの苦労が報われたようでした。



修了論文発表の様子



認定審査委員から質問を受ける塾生

やつぱり、魚をたべてもらいたい！ JF坊勢 小林幸生(10期生) 指導員：大野泰史(国造路農林水産振興事務所)	但馬地域における漁業者と漁業協同組合の現状 JF但馬 島崎卓也(10期生) 指導員：大石賢哉(県但馬水産事務所)
漁業者への就業と今後の展望 JF仮屋 引野裕允(10期生) 指導員：高倉良太(県洲本農林水産振興事務所)	いかなご・しらす水産加工業の今 JF兵庫漁連 藤本朋也(10期生) 指導員：都倉由樹(県農林水産局水産課)
一宮町漁協の市場集約の現状とこれから JF一宮町 山中盛吉(10期生) 指導員：若隆宏(県洲本農林水産振興事務所)	(発表順：敬称略)

〔修了論文認定審査員〕山田隆義塾長(兵庫県水産振興基金)・田和正孝運営委員(関西学院大学)・小林孝司運営委員(県水産課)・堀豊運営委員(県立水産技術センター)・田中稔彦運営委員(JF兵庫漁連)・近藤敬三運営委員(兵庫県水産振興基金)